

JR産業の安全確立にむけて

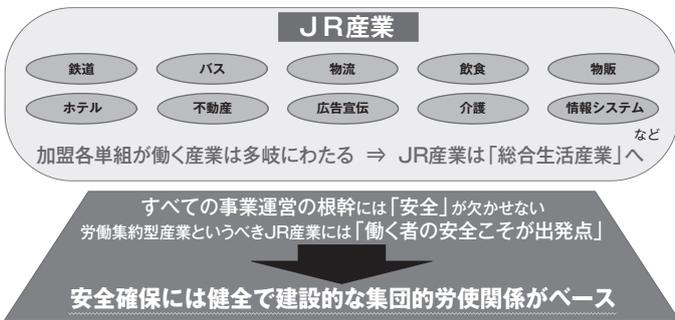
JR連合交通政策部長
(安全担当) 中村 鉄平



ご存じのようにJR産業は、鉄道だけでなくバスをはじめ、物流、飲食、物販、ホテル、不動産、広告宣伝、情報システム、そして介護事業というように多岐にわたる企業グループとして成長を続けてきました。今やJR産業は「総合生活産業」といべき産業になっています。

しかし、鉄道をはじめとして、JR産業の各業種・業態は、いずれも労働集約型産業であり、どこを切り取っても「人」が介在しており、「人」

が支えています。そのため、労働災害につながりかねない、危険の芽がいたるところに潜んでいるということになります。こういった環境の中で、働く仲間たちの安全をしっかりと確立していくことが、JR連合の使命です。



JR連合はこの間、安全確立を最優先課題と位置づけ、活動を展開してきました。そして、今回のシンポジウムでもさまざまな視点から安全について討議してきたところですが、やはり働く者の安全こそが出発点—すべての事業運営の根幹として、何よりも欠かせないものだと考えます。

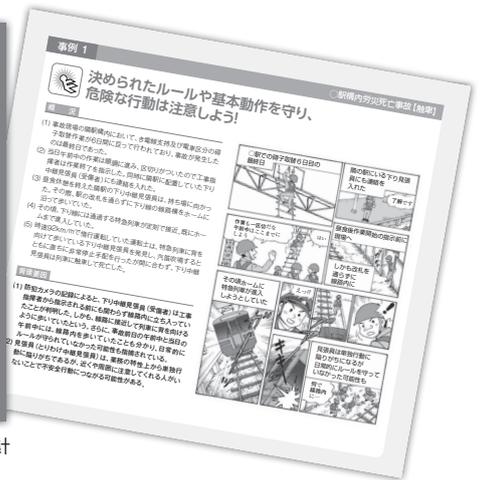
その根幹を形づくるためには、何が必要か。それは、「民主的な労働組合」による「健全で建設的な集团的労使関係」ではないでしょうか。職場の安全衛生活動をはじめとして、労使が真剣に意見を交わしていなければ、安全というものを守り続けていくことはできません。このことを改めて確認しておきたいと思えます。

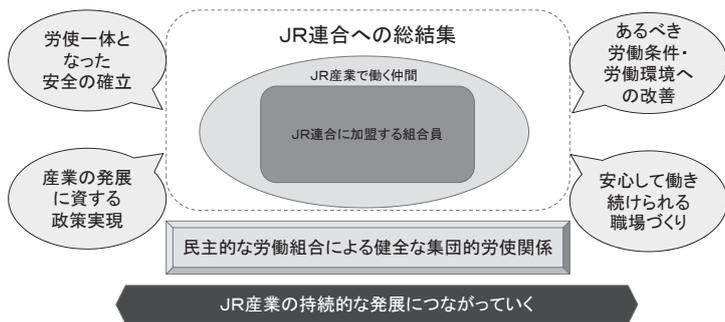
本日配布した「重大労災防止の行動指針」にも記されていますが、働く者一人ひとりが安全最優先ということを大切にしなければなりません。「決められたルールをきっちり守る」「急いでいても慌てていても一呼吸おく」「余裕を持った行動をとる」「不安になったら手を止める」「電車も止める」「職場の仲間とのコミュニケーションを大事にする」ということは、基本的な心得として肝

に銘じて、安全は絶対に譲らないという信念に基づいた行動を実践することが重要だと考えます。こうした行動を誰がとるのかというと、JR連合に加盟する組合員一人ひとりであり、それぞれの職種・職責の中で取り組んでいただきたいと思えます。また、各級機関においても取り組みを推進しなければなりません。単組においては、安全事故防止への対策の強化。今回のシンポジウムでも労働協議を通じてしっかりとおりですくというご報告があったとおりですが、改めて皆さんの取り組みを振り



「重大労災防止の行動指針 (改訂版)」(2017年)





返りながら、参考にできたのではないでしょうか。エリア連合においては、安全ディスプレイを通じた情報共有と、さらなる活動強化につなげていただきたいと思います。

そして、JR連合は引き続きJR産業の安全確立に向けた取り組みの展開、関係者間の連帯強化を目指します。そのためには、各単組・エリア連合へのバックアップも惜しみませんし、連携の強化にも努める所存です。本日は電力総連の方にもお話をいただきましたが、こういった各

まとめ・閉会あいさつ

働く仲間で見聞を共有し

職場の安全にむけ実践

JR連合副会長・安全対策委員長
(JR九州労組中央執行委員長)

中原博徳

産業のすぐれた取り組みなどの情報を皆さんに伝えていくこともJR連合の大切な役目だと考えています。

さらには、JR連合への総結集を目指す中で、「安全」はすべての職場に共通した課題であり、やはり労働組合がなければ、労使協議などできませんし、安全対策も実効性のあるものにはなりません。ただし、「安全の確立」ということを呪文のように唱えていても、真の安全確立はできません。したがって、各組織

におけるさらなる諸活動の充実・強化を図っていかねばなりません。

今こそ、民主的な労働組合による健全な集团的労働関係を構築し、安全衛生委員会や労使協議などにより取り組むこと。これは、いうまでもなくJR産業の持続的な発展につながっていくのです。

職場にはJR、あるいはグループ会社関係の方々だけでなく協力会社の方もいらつしやいます。その仲間たちにもしっかりと目を向けて、J

Rの職場すべての安全確立を目指したいと考えます。

安全確立にむけた取り組みをさらに進め、「JRなら安全に働ける」という「常識」を私たちの手でつくっていきたくーそれがJR連合の願いです。JR産業を持続的に発展させていくためには「安全」は欠かせません。みんなの力で、安全なJR産業を築き上げていきましょう。そのためには労働組合の輪、集团的労使関係の輪を拡げていきましょう。



今回の安全シンポジウムには、さまざまな業態・業種で働くたくさん仲間に参加していただきました。そして、さまざまな立場から提言をいただきました。

それぞれの職場が抱えている問題や課題は異なりますが、職場の安全に対する思いは、みな共通だということを確認することができた

のは、大きな収穫だったと思います。安全は労使共通の課題として、これからも共に考えなければなりません。また、組織の垣根を越えて取り組まなければ、解決はできません。

今回のシンポジウムで、私たちは多くの新たな知見を得ることができました。今後の私たちの課題は、この知見を単なる知識に終わらせるのではなく、それぞれの職場に持ち帰って実践することです。これが私たち労働組合の使命だと思います。

今回の安全シンポジウムは、やはり、この言葉で締めたいと思います。皆さん、ご安全に。